
時間機械恋愛

白猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時間機械恋愛

【Nコード】

N0746Q

【作者名】

白猫

【あらすじ】

1982年

当時女子高生をしていた小柄の少女「北乃理穂きたのりほ」は毎日のなんの変哲もない日常に飽き飽きとしていた。そんな中、理穂は一人の老人に出会う。

その老人は「時間機械研究所」のリーダー、「酒鬼薔薇勇次郎」彼との出会いは理穂の運命を大きく変えた。

卵型

「これを見る」

バサッと音をたてて巨大なカーテンが開く

私の目の前にあるのは、博士が研究を重ねて作り上げた

「タイムマシン」

いわゆる私から見ればただの鉄の塊だ

その塊は卵のような形をしていて、近未来を思わせる目に新しい形をしている。

ただ、何年もの間研究の実験台となっていた私だが成功した例は一度も無い。

「本当に成功するの？これ」

私の質問に博士は目を大きくして答えた。

「当たり前だ！今度こそ、必ず成功してみせる！何年もの間飲まず食わずで研究した成果を

今！！君の体で実証してみせるさ！」

なんとも自信満々な返事。

「電車の形。車の形。あげく、引き出し。この卵は今度こそ私を過去に連れてつてくれるのかしらね。」

「光の速さに近い速度で回転するこの機械は、機内とその外の時間をうんとねじませて、時空を超え、君は今回

過去ではなく、未来へ飛ぶんだ。さあさ、早く乗るんだ！」

自信満々な表情で語る博士の目は星のように輝いている

「未来ね。悪くないわ。」

「さあ、思い残す事は？」

「ふふ。特に無いわ。ただ、私がこれから旅立つ未来が数秒先じゃない事をねがってる。」

博士はしかめっ面で小さく「乗るんだ」と言った。

博士が手元の熊の鍋つかみが付いたレバーを力一杯引くと、卵の扉

がプシューと音をたてて開いた。

高密度のスポンジ状の機内に服を脱いで、ねじ込むと、博士は扉を手で押し、重い音をたてながらゆっくりと閉めた。

（手動なのね。）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0746q/>

時間機械恋愛

2011年1月16日07時55分発行